

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3071100287
法人名	社会福祉法人 清和福祉会
事業所名	グループホーム美里園
所在地	和歌山県海草郡紀美野町安井6-1 (電話) 073-495-3216

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成22年2月4日	評価確定日	平成22年2月17日

## 【情報提供票より】(21年9月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算	6.0人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.4 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	石本病院、河野歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人は地域の高齢者介護事業に取り組み経験が蓄積されており、ホームも総合的な連携の下に運営されている。ホームは、地域の中学校の福祉体験学習の場として生徒が週一回訪問し、またふれあい作品展に出品する作品などを利用者と一緒に作り、中学校にも展示するなど地域との交流に積極的である。指定のかかりつけ医が月2回、必要なときは週2回来診し、また理学療法士も週一回訪問があり利用者・家族が健康・医療面で安心できる配慮がなされている。職員は家庭的な雰囲気の中で明るく真摯に利用者として接している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	日常的な外出支援について、利用者の体力低下で困難な状況であるが引き続き支援を行うよう期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、ミーティングでそれぞれの項目について職員間で意見を交換し管理者が取りまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では構成員からホームの見学・勉強会開催の検討やボランティアによるお話・読み聞かせ会の再度開催等について提案があり、それらの意見をサービス向上の参考としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	福祉サービス第三者委員会を設けて掲示し、また「グループホーム便り」でも意見・苦情等があれば申し出てくださいと呼びかけているが、今のところ意見・苦情等は出されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町の敬老会や文化祭等に参加し、また中学生が福祉学習に来訪し交流している。なおふれあい作品を中学生と共同に制作、展示したり、多様なボランティアを受け入れている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症が重度化しても、人間としての尊厳や権利を損なわず、地域に密着し最後までその人らしいあり方をめざすという事業者独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関の入口のところに掲示し、管理者・職員は日々理念を念頭に置いてケアを行っており、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の敬老会や文化祭等に参加し、また近辺の中学生が週一回福祉学習に来訪するなどの交流を行なっている。なお「ふれあい作品展」の共同出品作品を中学校に展示したり、多様なボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者職員共に自己評価・外部評価の意義を理解しており、改善に向けた取り組みが行われている。今回の自己評価もミーティングでそれぞれの項目について職員間で意見を交換し管理者がとりまとめた。前回外部評価の指摘事項の日常的に少しでも外気に触れる時間をもつ取り組み(日常的な外出支援)については、利用者の体力の低下で困難な状況であるが引き続き支援を行うよう期待される。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3月に1度開催され、ホームの行事等について報告し、構成員からホームの見学・勉強会開催の検討やボランティアによる「お話、紙芝居、本の読み聞かせ会」の再度開催などについて提案があり、それらの意見をサービス向上の参考としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは法人の事務長がパイプ役となり情報を得たり、必要な報告書の記入方法や苦情相談の受付時間帯等について質問して関係を密にしておき、それらをサービス向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は家族に随時電話で知らせており、また毎月来訪する家族が殆んどでそのとき話し、写真のファイルも見てもらっている。また4か月に1度「グループホーム便り」で行事等を報告している。なお金銭管理は法人で行っており、収支、残高について郵送にて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人に福祉サービス第三者委員として苦情・相談窓口を設けて掲示しており、また「グループホーム便り」でも家族の意見、苦情、相談があれば申し出てくださいと呼びかけを行っているが、今のところ苦情等は出されていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はなるべく少なくするように努めており、離職があった場合でもできるだけ遊びにきてもらうようにしている。なお離職後新しい職員が入ってきたときは利用者との対話を多くして接する時間も多くなり、早く馴染んでもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員には「サービスの考え方」や業務マニュアルを渡し管理者や先輩職員が実施指導を行うことになっている。また職員は地域密着型サービスケアネット和歌山が主催する研修会に希望により、または指示で参加しており、研修内容は会議で報告し、復命書は全職員に供覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービスケアネット和歌山に加入し、グループホーム間の相互実習を行っており、他ホームのサービスの仕方で見習うべき面を取り入れ、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気に馴染めるように、入居前に利用者、家族に見学してもらっているが、法人内のデイサービスやショートステイを利用しながら待機し入居する人もあり、場の雰囲気に馴染み易い。なお入居後はできるだけ部屋に閉じこもらず、同一地域の出身者と話し合ったり、部屋や便所を張り紙などで表示し、徐々にホームの雰囲気に馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から季節の行事や慣わし、料理などを教えてもらったり、一緒に生活をしながら喜怒哀楽を共にし支えあう関係をつくっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と密に接し、思いや意向の把握に努め「私の姿と気持ちシート」に記載している。把握が困難な人については家族等に尋ね、その人らしく暮らせるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回ケース会議を開く他、毎日のミーティングでの職員の気付きや意見を取り入れ、家族や主治医等関係者の意見を反映して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則として3か月に1度見直しているが、計画が本人のニーズに合っているかいつも職員間で検討し、状態の変化に応じて現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況やその時々要望に応じ、通院や退院時の送迎、また日帰りドライブなど特別な外出支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師がかかりつけ医となり、月2回、必要ときは週2回の往診を受けている。医師にはホームでの日頃の状況を報告し、意見に従って対応している。なお理学療法士も週1回訪問があり、適切なりハビリを受けることができる。このほか利用者が希望する病院への通院も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期をどうするかについて、ホームの医療体制について説明し、利用者・家族の希望や同意書を書いてもらい、話し合いのうえ職員と方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者を尊重しており、言葉遣いや対応などで利用者の誇りやプライバシーを損ねないように注意している。なお利用者の記録等については、漏れることのないよう事務所の書棚に保管し夜は鍵をかけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその日をどのように過ごしたいか日頃の習慣や行動でおおよそ把握しているので、職員の決まりを優先することなく、利用者の希望を断らずに利用者それぞれのペースを大切にして接している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの食材を取り入れて献立を作っており、会話をしながら食事を楽しむように努めている。なおホットケーキなどのおやつ作りは利用者も手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に入浴してもらうようにしており、利用者の希望を聞いているが、一般浴と体の状況で機械浴の人がいる。職員はくつろいで楽しく入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできる人には、洗濯物を取り入れて畳んだり、毎日カレンダーをめくるなどの役割をしてもらっている。また千羽鶴を折ったり、編物、塗り絵、トランプ、カラオケ、共同作品作りや保育園児のタイコ演奏などの楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近辺の散歩やドライブを兼ねて買い物などに出かけている。地域の文化祭や敬老会等にも参加しているが、体力的に外出が困難になってきている。閉塞感をなくすよう玄関の前の花を見に出たり、天気の良い日は外に出て外気に触れるよう努めているが日常的とはいえない。	○	利用者の体力的な問題もあると思うが、1日室内にいる閉塞感をなくすため短時間でも外気にふれ季節の風を感じるようなような支援が望まれる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵をかけていないが、玄関の扉は暗証番号で開閉するシステムになっており、利用者・家族の了承を得て施錠している。鍵をかけないケアを検討していたが、地区長より本人の安全のため鍵をかけてほしいと要望があった。管理者・職員は弊害を十分理解してうえで閉塞感を感じさせないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で、年一回消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、利用者と共に参加している。法人施設とは廊下で繋がっており災害時等に協力を受けられる体制にある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量を記録しており一日を通じて必要量が確保できるよう支援している。またおおよその栄養バランスを考慮した献立表により調理しており必要な栄養分が確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間(リビング・食堂)にはくつろげるソファやテーブルが配置され、壁面には行事の写真や手芸品などを掲げ、折り鶴を吊るしている。また職員の声のトーンや室内の明るさも適当と感じられた。窓からの緑の景観や、季節の活け花により季節感を出しており、居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者にもよるが、テレビを置いたり、編物や造花を飾ったりして居心地よく暮らせるよう配慮されている。また窓からは緑のある景色を眺めることができる。		